



## 4者共催イベント開催報告

# ライフ in 灯きょうと 2017

去る9月8日、京都市中京区に位置するろっくんプラザにて、「ライフ in 灯きょうと 2017」を開催しました。自殺予防週間（9月10日～9月16日）に先駆け、京都府・京都市・こころのカフェきょうと、Sottoの4者が共催で実施しました。この企画は「少しでも多くの方に自死・自殺について知ってもらう」ことを主な目的とし、自死・自殺に関わる民間団体や行政が連携して実施したものです。ろっくんプラザは名前こそ知られていないかもしれませんが、観光客や大学生、社会人など人通りがとても多い場所です。そのような場所で街頭活動をすれば、少しでも自死・自殺について目を向けてもらえるのではないかと、さらには、街頭啓発をすることで死にたい気持ちを抱えた方に必要な情報が届けば、、、そのような想いで活動をしてきました。人通りが多いだけに当初用意していた配布物がすぐになくなってしまったり、多くの方に情報を届けることが出来ました。

活動はお昼の14時～夜の19時までで行いました。あたりが暗くなるにあわせ、ろっくんプラザをLEDキャンドルで装飾したり、活動中、段ボールで作成した大きなトリックアートを展示したりしました。トリックアートは単にかわいらしいものを作成するのではなく、通行人が足を止めた時に読み込めるような情報を載せたり、死にたい気持ちを抱えた方や、大切な方を自死・自殺で亡くした方が相談場所を知ってもらえるよう共催団体の相談先の相談先情報を載せたり、相談先が記されたパンフレットを設置したりしました。より人目につきやすくするために、死にたい気持ちを抱えた方が気持ちを話すことができる場所の情報を紹介できるように工夫をしました。

この企画に参加することで行政をはじめ他団体の方と知りあうきっかけとなります。この企画に関わっているのは自死・自殺に関連する民間団体や行政の担当部署です。そのような方々と知りあう事は、今後のSottoの活動の発展にもかかわってきます。Sottoとは異なる思いで活動されている他団体の方と接することで新しい活動が生まれたり、お互いに活動を協力し合う事でより発展的な活動を見込める事も、Sottoが共催団体に参画しているメリットと言えると思います。

(メール相談委員長 長嶋蓮慧)

# 生越理事長×竹本代表

2010年の開設から8年。Sottoの活動を継続するなかで、開設当初より鮮明になったSottoの特徴や大切にしていることについて、今年度から理事長を務める弁護士が生越と代表の竹本の対談でお伝えします。



## vol. 2 「体験主義」

生越：例えば、経済的な、自由主義という考え方。神の見えざる手、といわれるような自由主義的なことがいわれるじゃないですか。アダム・スミス頃の神の見えざる手は条件があって、キリスト教的な、社会的な道徳的な規範があって。そのなかでこそ自由主義が成り立つ。だから、いまある民主主義や自由主義というのはある意味フィクション。その根っ子を支えているものがあって、それは人間の苦悩かもしれないし、喜怒哀楽かもしれないし。それは表層の部分では掴みきれない。だから、ある種、Sottoは正当近代派かもしれないね。近代がなんであるか、近代の限界を知って、Sottoは活動しているのかもしれない（笑）

竹本：そんな風に意味づけしてくれると嬉しいですね（笑）。近大の価値観を否定するつもりはなくて。むしろそこから零れ落ちざるを得ないところを、どう補足していくか、フォローしていくのか、という視点は最初期の頃からありますね。継続していくなかでよりクリアになって気はしますね。

生越：話を戻すと、他の自殺の団体と違うところは、そこを見ているので、結局息がながい。地に足がついている。キリスト教的な団体もあるけれど、その多くがいまは何をしているのか僕は知らないんだけど。多くの団体が遺族の分かちあいの会を作ったじゃないですか、一時期。だけど、人が来ないってなって、ほとんど形骸化してしまっている。それに比べて、地に足がついている気がする。そこは背骨がしっかりしているからだろうな。

竹本：なるほど、あとうちは体験主義的なところが強いかもしれない。自分たちが実感できるところはやるけれど。実感できていないところは分かりません、やれない。実感できていないところは、他の領域にまかせる。諦めじゃないですけど、そんなところはある。

生越：言葉化できないものに対してどのように向き合うか、という議論もあって。昔々言葉がなかったときって、歌ったり踊ったりというのがコミュニケーションの方法だった。ギリシャ哲学では、雷に打たれるという体験をすることによって、雷とはなんぞやということを思考した。そういう風に体験的なところから考えるのと、一方で、理詰めやって「3万人だから減らさないといけない」ってなっちゃうと、それじゃ続かないことが多い。参加している人たちも内発的な面をしっかり持って関わっている感じがする。そこがいいよね。

竹本：養成講座を受講して、電話相談員として認定するかしないかという判断をするんですけど、そのときの基準となるのが体験的なところ。自分自身が人の暖かみとか、優しさに触れることによって生じる安心感を、研修の中で実感することができたか。人間同士の温かみ、優しさを実感できているかどうかということを中心にしている。変な団体ですよ（笑）。

生越：それでいいんじゃない。もう7年目もたっている。すごいよね、大したもんだよね。

竹本：Sottoで長いこと、ベテランで長くやっている相談員でも、おそらく、社会学的な自死の知識って結構もっていなかったりする。

生越：それって感覚的なものなんでね、それはそれでいいんじゃない。同じ「聴く」でも、カウンセリング的な姿勢や他の電話相談の団体とも、Sottoがやっている姿勢って、ちょっと違うよね。そこに対して自覚的だし、自信を持っているところも良いなと思うよ。

(続く)

## 今月のことば

音もなく涙を流す我がいて授業は進む 次は 25 ページ

(鳥居『麒麟の子』より)

## 活動報告

- 9月期電話相談件数…165件（無言7件、よりそいホットライン担当61件を含む）
- 電話相談委員会 … グループ研修9月3日3名、21日10名
- メール相談件数…受信122件、送信106件
- メール相談委員会…委員会会議9月27日 8名
- 居場所づくり委員会 …Sotto おでんの会 “研究の場” 10月2日10名（参加者12名）  
委員会会議9月27日3名
- グリーフサポート委員会 … 語りあう会9月14日5名（参加者2名）
- 研修委員会 … 委員会会議9月3日3名
- 広報発信委員会 … 委員会会議9月19日7名
- 映画委員会 … 委員会会議9月15日4名

## 寄付ご協力一覧（敬称略・順不同） 2017年8月1日～31日 受付分

ご支援ご協力ありがとうございます。

浄土真宗本願寺派  
株式会社エクザム  
葛野洋明  
荻野昭裕  
吉田郁子  
藤大慶  
光国寺仏教婦人会  
高知県高岡郡・宝誠寺  
木下慶心

Sotto コメント  
じぶんにとどきどきよしよししてあげよう。(N.Y.)

発行 2017年10月  
特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局  
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92  
TEL 075-365-1600  
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>  
E-mail [so-dan@kyoto-jsc.jp](mailto:so-dan@kyoto-jsc.jp)